

全国稲作経営者会議通信

いなけい

Vol. 15 2020年8月7日発行

全国稲作経営者会議

自立した経営を目指して

〒102-0084 東京都千代田区二番町 5-6

あいおいニッセイ同和損保二番町ビル7階

(一社)全国農業会議所経営・人材対策部内

TEL:03-6910-1124 FAX:03-3265-5140

E-mail:inakeikaigi@nca.or.jp

URL:http://inakeikaigi.jp/

2019年7月 第44回全国稲作経営者現地研究大会

2019（令和元）年7月18日・19日の両日、岩手県花巻市で第44回全国稲作経営者現地研究会を開いた。会員農業者をはじめ、関係団体、企業から約400名が参加し、講演や視察を通じて研鑽を積んだ。開会にあたり平石博会長は、担い手となることで地域で農業者が少数派となり意見が通りづらくなっている状況を踏まえ「次世代へつなぐ農業構造の構築を目指して活動していく」と力強く挨拶した。

初日は全体会を開催。講師3名が講演した。

はじめに2011年（平成23年）3月10日に発生した東日本大震災で大きな被害を受けた三陸鉄道株式会社の代表取締役社長中村一郎氏が「光り輝く三陸を目指して～三陸リアス線開通～」をテーマに講演。

被災地の復興・復旧の経緯を紹介、震災を伝え、震災を学ぶ重要性について語った。また、同社は震災後も子供や高齢者の貴重な「生活の足」として活躍しており、今後も企画列車や



力強く挨拶する 平石博会長

2019年（平成31年）3月31日に開通した三陸鉄道リアス線を通し、地域の振興に貢献していくという。最後に中村氏は「これからも人と人、笑顔と笑顔、希望と希望をつなげていきたい」と語り講演を閉じた。

次に開催県である岩手県の稲作農業者で2日目の現地視察先になっていた株式会社西部開発農産代表取締役社長の照井勝也氏が「我が社の

〈 目 次 〉

1. 「第44回全国稲作経営者現地研究大会」を開催…………… 1
2. 「第38回若い稲作経営者研究会夏季研修会」を開催…………… 4
3. 「第49回全国農業経営者研究大会」を開催…………… 5
4. 「令和2年度全国稲作経営者会議政策提案」を決定！…………… 7
5. 「令和2年度全国稲作経営者会議年間スケジュールを決定しました！…………… 8

経営戦略～農業生産法人の現場から～」をテーマに演台に立った。

同社は農林水産省・全国担い手総合育成支援協議会(事務局：全国農業会議所)が主催する平成 30 年度全国優良経営体表彰担い手づくり部門において経営局長賞を受賞した非常に優れた経営体である。

同社は 940ha を超える経営面積で水稲、大豆、小麦、ソバを栽培するほか野菜、畜産、加工・飲食に取り組んでいる。大規模経営を効率的に進めるため I C T も積極的に活用した経営を展開。G N S S (全球測位衛星システム) を活用した小麦を大豆の畝間に立毛間播種する自動操舵の様子やタブレットを使った農地管理の模様を映像で紹介した。

大豆の播種データを記憶したトラクターが大豆を踏まずに小麦を播種していく映像を見た会場からは驚きの声が上がった。

「アナログでできないことは I T 化、I C T 化するのには困難。最初はアナログでやってみること」と語る照井氏。試行錯誤を繰り返し、従業員が安全に作業でき安全な農産物を生産出荷できる社内環境づくりを目指している。

最後に「日本稲作の技術選択への考察～欧米の稲作技術と比較して～」と題して農研機構東北農業研究センター農業経営グループ長の笹原和哉氏が講演を行った。日本・イタリア・アメ

リカの 3 か国の稲作の歴史的展開などを挙げ、各国の稲作を比較・紹介し、生産コストの低減に取り組む欧米の栽培技術の日本での導入の可能性を探った。

18 日の夕刻に代議員総会が開かれ、任期満了に伴う役員改選が実施され、平石博氏(新潟県稲作経営者会議)が 2 期目の会長に就任し、経営技術委員長は新任の古谷正三郎氏(一般社団法人千葉県農業協会稲作部会)が就任した。



2 期目の平石会長(左)と新任の古谷委員長(右)

2 日目は、「一関コース」約 80 名と「花巻・北上コース」約 180 名に分かれて省力化などの取り組みについて現地視察を行った。

「一関コース」では中尊寺を視察後、一関遊水池の第 3 遊水池にてスマート農業の実演を視察した。

一関遊水池は昭和 22 年、23 年の台風被害による大水害をきっかけに、①洪水調整、②市街地への水害防止、③中小洪水の遊水池内への氾濫防止の 3 つの目的から計画、事業着手されたものであり、一関市と平泉町に跨がる約 1,450ha の水田がある。同遊水池には民家が一軒もなく大規模な営農が可能なことから、1 区画 5 ha の工区均平方式を採用した水田の整備が行われた。第 1 遊水池は農事組合法人プロファ一関、第 2 遊水池は農事組合法人アグリ平泉、第 3 遊水池では農事組合法人アグリパーク舞川の 3 法人が遊水池ごとにそれぞれ営農の中核となるとともに 50 余りの大規模個別経営体が農



達増岩手県知事をはじめ多くの来賓も臨席

地中間管理事業を活用して農地集積を進め、営農を担っている。

一関遊水池は低コスト化に対応するため、一層の合理化を進めており、土地改良区がR T K 基地局を整備し、G P S 付農機やガイダンス付きドリルシーダーをはじめとする多くの最新農機が導入されるなどI C T 化も徐々に進んでいる。



一関コースのスマート農業実演風景

「花巻・北上コース」は、まず有限会社盛川農場で乾田直播圃場と子実トウモロコシ圃場を視察し、次に株式会社西部開発農産でスマート農業の実演を視察、その後、宮澤賢治記念館を視察した。

盛川農場は、水稲 30ha、小麦 35ha、大豆 8 ha、子実トウモロコシ 10ha を家族 4 人で経営しており、限られた労働力を効率化しようと乾田直播、無代掻移植、露地育苗などに取り組んでいる。水稲は「萌えみのり」「ひとめぼれ」「ゆみあずさ」「たわわっこ」の 4 品種で作期を分散し、小麦と大豆の機械を汎用的に使うなど効率化と低コスト化を追求している。

子実トウモロコシは地元ブランド豚「白金豚」の飼料として提供し、豚ふん堆肥をトウモロコシ、小麦、大豆圃場に使う耕畜連携を実現した。

早くから実用化に取り組んだ乾田直播種は 4 月下旬播種、10 月中旬に収穫を行っており、問題となりやすい雑草防除について「計 4 回防除している。芽が出る前に非選択性除草剤を使い、



子実トウモロコシ圃場を説明する盛川氏

1・5 葉期でヒエ剤、湛水後、ラジコンボートで除草剤散布をした後、最後に広葉対策をしている」と代表取締役社長の盛川周祐氏は語った。

次に視察した株式会社西部開発農産は、水稲 130ha、飼料米 120ha、W C S 70ha、大豆 290ha、小麦 157ha、ソバ 165ha、牧草 50ha の栽培に加え、肥育牛 100 頭、繁殖牛 100 頭を飼養するメガファームである。ほかにも加工・飲食などに取り組み、売り上げは 6 億円を超える。

全体会でも講演した代表取締役社長の照井勝也氏は「従業員が安全に作業できる環境づくりのためアジア G A P を取得した。業務管理、栽培管理には I C T を積極的に導入している」と説明。G N S S（全球測位衛星システム）を活用した精密農業、G I S（地理情報システム）を使った農地管理をしている。

畑作では播種適期を逃さないよう、すべての品目で使える不耕起対応の汎用型播種機を持



G N S S 自動操舵によるソバの播種などを視察

ち、小麦は大豆の畝間に立毛間播種をしている。

そして1年目、2年目に大豆、3年目に小麦でその後にソバを作付する3年4毛作の輪作体系を確立した。

また、小麦の立毛間播種にはGNSSの自動操舵を取り入れ、小麦の播種時に大豆を播種したデータを呼び出すことで、トラクターは自動で繁茂した大豆を踏むことなく播いていくことを可能としている。

2019年7月 第38回若い稲作経営者 研究会夏季研修会

全国稲作経営者会議青年部(井上貴利部会長)は2019(令和元)年7月2日・3日、福岡県福岡市で「第38回若い稲作経営者研究会夏季研修会」を開催した。次代を担う若手経営者と関係企業約100名が集結した。

1日目は、セミナーを開催。2人の講師の講演と賛助会員からの情報提供を受けた。

まず、ベイシック株式会社・半田税理士事務所代表の半田正樹氏が「消費税の改正と軽減税



全国から約100名の会員や関係企業が参加

率及び事業継承に係わる税制特例の概要」というテーマで講演した。半田氏は令和元年度は消費税率が8%と10%の複数税率になることに触れながら、「税務対策だけでは承継はうまくいかない。法的整備を怠ると大変なことになる。」と語った。

2人目の講師は、2日目に視察先になっている株式会社オーレックの関雅文統合総合部長が「「草と共に生きる」オーレックにできること」と題し講演を行った。

その後、全国稲作経営者会議の賛助会員企業と福岡県稲作経営者会議の賛助会員計12社が会員に向けて情報提供を行った。一度にここまで多くの賛助会員に情報提供をいただくことはなかなか無く、会場は大いに盛り上がった。

2日目は株式会社オーレックを視察。なかなか見ることにできない、最新の草刈り機の製造



株式会社オーレック視察の様子

工程を見学し、今後の自社の経営に大いに役立つ研修となった。

2日間の研修を終えて井上貴利部会長は、「昨年の岐阜に引き続き、非常に盛り上がる研修会となった。これからも青年部として盛り上げていきたい。会場の手配や視察先の選定などの企画・準備を行ってくれた福岡県稲作経営者会議青年部、その他のメンバーの方々には改めて感謝申し上げます。」と話した。



株式会社オーレックにて

なお、2020年度の若い稲作経営者研究会夏季研修会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け中止となったが、2021年度の夏に向けて全国稲作経営者会議青年部役員で企画検討を進めている。

2020年1月 第49回全国農業経営者 研究大会

全国農業経営者協会（六車孝雄会長）と全国認定農業者協議会（平澤協一会長）、全国農業会議所（二田孝治会長）は、「100年続く農業

第49回全国農業経営者研究大会 ～100年続く農業経営のための経営理念と人材(財)育成～



開会に先立ち挨拶する六車孝雄会長

経営のための経営理念と人材（財）育成」を全体のテーマとし、2020年1月28日・29日の2日間の日程（東京都内）で第49回全国農業経営者協会を開催。150名以上の農業経営者が参集した。

〈1月28日 全体会〉

初日の全体会では3人の講師の方が講演した。

まず最初に講演したのは、株式会社六星代表取締役の軽部英俊氏。「経営理念の改革による経営展開と人材育成～六星流コミュニケーションで農業に活力を！～」をテーマに講演した。

同社の経営面積は約160haでうるち米・もち米・野菜の生産を行い、餅や和菓子、惣菜など

に加工し、百貨店やスーパーなどへの販売も行っている。

軽部氏は、同社の6次産業化や販売戦略について、経営理念である「コメコミュニケーション精神」（農業から生まれる安心で美味しい食の提供と真の情報の交換によって共感と信頼の絆を築き多くの人々の心豊かな生活に貢献する）について語った。

今後は新たな水田農業経営にチャレンジすると共に、個の経営から地域連携型経営に転換し、年々増加する取扱量を活かした広域農業生産体制への取り組みを行うと言う。

2人目に登壇したのは、ファーマーズ協同組合理事長の近藤隆氏。「香川県ファーマーズ協同組合が取り組んでいる外国人の雇用と現況」と題し、外国人技能実習生や特定技能外国人の受け入れについて語ると共に、組合の概要や取り組む事例について紹介した。

同組合は今後、現地法人の立ち上げや国内の異業種との最低賃金の格差や優秀な外国人材をどのように育て残していくかと言った諸問題の解決に取り組むとしている。

最後に「障がい者の能力発揮による農・福・商の相互成長」をテーマにアルファイノベーション株式会社代表取締役山田浩太氏が講演した。

山田氏は「人手不足で単調作業が多いとされている農業。一方で、障がい者の仕事は不足し、単調な連続作業は比較的得意とする。補完しあえる関係で相性がいい」と話す。山田代表は、かつて経営コンサルティング会社に勤務し、約60社の農業参入を支援。その中で、2012年に農福連携による経営展開を目指し同社を設立した。

同社の福祉就労分野は、月額の工賃を支払いながら、雇用契約を結んで一般就労することが困難な障がい者を支援する「就労継続支援B型」。現在45人が利用し、1日平均の人数は32～35人だ。創業以来、毎年平均1人ずつを一般就労につなげることに成功している。

障がい者にとって安全で働きやすい環境は、障がい者以外の人にとってもいい環境だ。山田代表は「安全性を重視するあまり、必要以上に過保護にはしないようにしている。目標は一人でも多く一般就労につなげていくこと」と話す。

グループ全体の目標は、顧客に品質のよい商品を提供し、約束した出荷量を守ること。山田代表は「出荷する農産物に、障がい者の関わりは関係ない。お客さまに商品として正当な評価をしてもらうことが大切だ。農・福・商それぞれにメリットのある三方良しを心がけている」と締めくくった。

〈1月29日 稲作分科会〉

米政策分科会では、農研機構中央農業研究センター北陸拠点の石丸努主任研究員が「地球温暖化・気候変動に対応したコメの栽培技術等について」をテーマに講演。国際稲研究所（フィリピン）への5年間の赴任経験や現在担当する新潟県の状況を踏まえ、白未熟粒発生状況やメカニズム、対策と高温耐性品種、今後増える可能性のある不稔について話した。

2019年の1等米比率は全国平均で80%を超えた。一方、新潟のコシヒカリは約27%と厳しか

った。一般的に白未熟粒は登熟前半の平均気温が26~27度以上で増加する。石丸研究員は「今年の出穂後の日平均気温が、新潟で3.6度高かったことが原因と考えられる」と分析した。

対策は心白粒、乳白粒、背白粒、基白粒と白未熟粒の種類により異なる。どのタイプにも影響するのが、登熟初期の高温だ。講演では、登熟期における要因と対策について解説した。

背白粒、基白粒では、出穂以降に湛水管理をすることで効果がある。また、玄米タンパク含量と関係するため、穂肥での窒素施用が有効。ただ、登熟以降の平均気温が28度になると期待できないという。

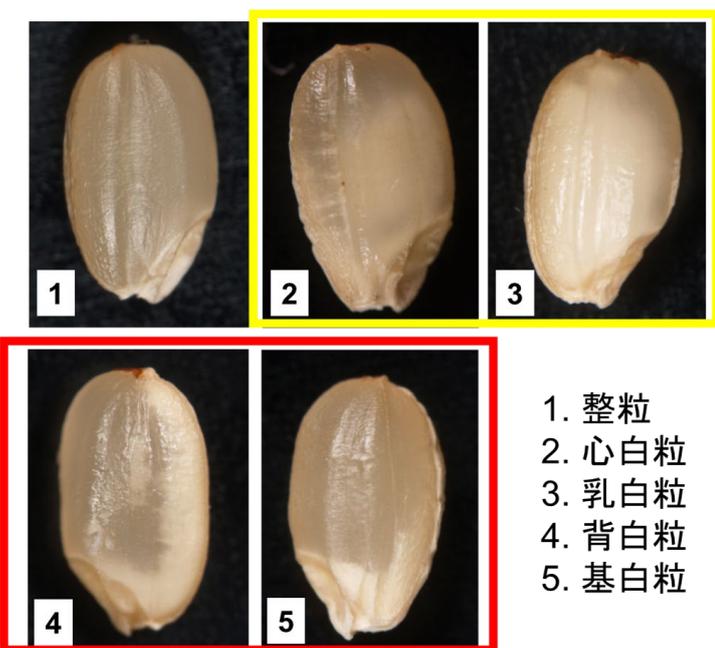
一方、乳白や心白粒の発生する条件は複雑だ。高温型は背基白粒と同様の対策が基本になる。低日射型では出穂以前、分けつ期の深水管理などによる籾数管理や茎内の貯蔵炭素増加が有効だと説明した。

登熟期を高温からずらす高温回避性品種や、高温耐性品種の選択も対策の一つだと提案。農研機構でも、各地域に合ったさまざまな品種の開発が進んでいる。石丸研究員は「経営面積の大規模化が進んでいる。熟期の異なる品種を栽培することは、環境ストレス軽減だけでなく、農作業の分散化、効率化にも役立つはずだ」と指摘した。

講演の最後では、不稔についても言及した。不稔とは葯(やく)が裂けず、受精ができないことで空籾になる現象。開花期の気温が35度を超えると発生すると言われ、海外の熱帯地域を中心に問題になっている。

日本の平均気温は最悪の場合、50年後に4度上がると予測されており、対策が必要だ。石丸研究員は国際稲研究所の赴任時、稲の開花時に高温に当たらないよう通常の9~12時より開花時刻を早めた早朝開花性のイネを開発した。現在、ジャポニカ種での導入に向けた研究を進めている。

研究会に参加した香川県や茨城県の会員からは、すでに不稔が起きているとの報告もあった。



1. 整粒
2. 心白粒
3. 乳白粒
4. 背白粒
5. 基白粒

白未熟粒の種類。心白・乳白粒は内部、背白・基白粒は表面が白濁する

石丸研究員は「世界人口の約半分の主食は米で、世界的には今後、米の需要は増えていく。世界の高温不稔発生地域の知見を、日本の温暖化対策に役立てたい」と話した。

その後、分科会は本会青年部顧問の横田氏から農産物検査企画検討会について、有機米デザイン株式会社の中村氏からアイガモロボによる雑草対策について、農林水産省平形氏からコメを巡る状況について情報提供いただき幕を閉じた。

2020年4月 全国稲作経営者会議 政策提案を決定！

2020年4月、令和2年度第1回理事会で政策提案「『国民に支持される日本農業の創造』に向けた提案」を決定した。

我が国農業は、農業者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増大、中山間など条件不利地域では有害鳥獣被害の拡大など多くの課題を抱え、地域農業・農村の維持は危機的な状況にある。

とりわけ、稲作においては、人口減少が進展する中、さらなる米の消費減少に拍車がかかること、そして、昨今の気候変動・地球温暖化による栽培への影響などにより、安定した経営の実現に大きな不安を抱いている。しかし、地域の担い手として全国各地で多くの農地を引き受け営農している我々は、食料安全保障の観点からも将来に渡って国民に安心・安全かつ高品質な農産物を安定的に供給するとともに、営農活動を通じて農地を守り、美しい景観と環境を保全する社会的使命があると自負している。

国は、新たに「食料・農業・農村基本計画」を策定し、経営規模の大小や中山間地域といった地域条件に関わらず農業経営の底上げを図るとともに、国民の農業理解の醸成などにより、人口減少時代における農業・農村の維持・発展と食料の供給安定供給を目指すことされた。

我々は、地域と共存共栄した自立した稲作経営の確立を目指し、会員相互の研鑽による経営

改善と次代を担う人材育成により、我が国の農業を次世代につなぐ営農環境の構築に今後も取り組んでいく。しかし、将来にわたって安定的かつ効率的な営農活動を行うためには、「国民の農業理解」が欠かせないと考える。

以上の状況を踏まえ、今回の提案では、国に、新たな「食料・農業・農村基本計画」に基づき、我々が地域を守る担い手として、中長期的に経営戦略を描くことが可能で、かつ消費者である国民の理解によって支えられた産業としての農業が創造されるように取り組むことを求めた。

「国民に指示される日本農業の創造」 に向けた提案の概略

○営農に係る規制緩和・新技術の開発などの促進

- (1) 営農しづらい環境の改善
- (2) 生産機材等の規制緩和
- (3) 農業用施設の建築基準の緩和
- (4) 気候変動に対応した新品種開発や栽培技術等の確立
- (5) 農業者の目線に立った新技術の開発

○土地利用型農業の経営持続・発展対策の促進

- (1) 農業経営者間の農地利用権交換の推進
- (2) 中山間等条件不利農地の流動化対策
- (3) 「スマート農業」の実現に向けたインフラ整備の促進
- (4) 先進技術搭載農機導入への税制
- (5) 大規模借地型経営の更なる規模拡大に備えた条件整備

○消費者参画型の対策による消費拡大と

農業理解の促進

- (1) 国産農作物の消費拡大と地産地消の推進
- (2) 食農教育のさらなる推進
- (3) 食に関する正しい情報発信と新たな食文化の創造
- (4) 農業理解の促進に向けた情報発信

なお、本提案を農林水産省関係各局に提案する予定である。

令和2年度全国稲作経営者会議 年間スケジュールを決定！

先述の第1回理事会で年間スケジュールを決定した。しかし今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、栃木県で開催予定であった「第45回全国稲作経営者現地研究会」と青年部主催の

「第40回若い稲作経営者研究会」、「海外農業事情視察研修」は来年度の2021年度に延期となった。

本会の研究大会やセミナーは100人以上の参加者が集まる物も多い。随時、WEB形式での開催も含め実施の可否を新型コロナウイルスの感染状況を考慮しつつ判断する。

開催日	会合名	時間	場所
2020年6月			
未定(下旬)	第40回若い稲作経営者研究会(夏季)	延期	北海道
29日(月)	第1回経営技術委員会	13:30	ZoomによるWEB会議
7月			
3日(金)	青年部第1回役員会	13:30	ZoomによるWEB会議
7日(火)-8日(水)	第45回全国稲作経営者現地研究会	延期	鬼怒川温泉きぬ川三日月(栃木県)
7日(火)	第45回通常代議員総会	書面	鬼怒川温泉きぬ川三日月(栃木県)
10月			
13日(火)	経営技術セミナー	13:00	未定(都内)
14日(水)	第2回理事会	9:00	未定(都内)
11月			
未定(上旬)	第11回ファーマーズ&キッズフェスタ	延期	日比谷公園
未定(上旬)	青年部第3回役員会	未定	未定(都内)
12月			
15日(火)	青年部全体会	13:00	未定(都内)
16日(水)-17日(木)	第39回全国稲作経営研究会	13:00	未定(都内)
17日(木)	第2回経営技術委員会	13:00	未定(都内)
2021年1月			
未定(下旬)	第41回若い稲作経営者研究会(冬季)	13:00	未定(千葉県)
未定(下旬)	海外農業事情視察研修	延期	イタリア
2月			
上旬	第50回全国農業経営者研究大会	-	未定(都内)
9日(火)	第3回経営技術委員会	13:30	全国農業会議所1階会議室
3月			
11日(木)	第3回理事会	13:00	未定(都内)